

修士論文（要旨）  
2022年1月

「失独者の家」に対する利用者の主観的評価

指導 杉澤 秀博 教授

老年学研究科  
老年学専攻  
220J6020  
李 昭萱

Research Paper (Abstract)

January2022

Subjective evaluation of ‘only-child lost people’s home’ by middle and old  
aged users

Zhaoxuan LI

220J6020

Master’s Program in Gerontology

Graduate School of Gerontology

J.F. Oberlin University

Thesis Supervisor :Sugisawa , Hidehiro

## 目次

第1章	研究背景と目的	1
第2章	研究方法	2
2.1	研究対象	2
2.2	調査方法	2
2.3	調査項目	2
2.3.1	利用動機	2
2.3.2	利用の有用性	3
2.3.3	利用満足度	3
2.3.4	調整変数	4
2.4	統計解析法	5
2.5	倫理の配慮	5
第3章	結果	5
3.1	回答者の属性	5
3.2	満足度に対する利用動機と利用効果の評価の影響	6
第4章	考察	6
第5章	終章	7
	参考文献	

## 第1章 研究背景と目的

中国では、国の一人っ子政策に従い、その子に先立たれた者は「失独者」と呼ばれ、その数は100万世帯以上とも言われる。中国衛生と計画生育委員会によると、失独世帯は毎年7.6世帯のスピードで増加している。この失独者については、貧困問題、心理的問題、老後の介護問題が深刻化していることが、研究によって明らかにされている。失独者に直面している諸々な問題を支援するため、政府、民間企業、ボランティア団体などの組織が協同して「失独者の家」という全国公益団体を設立している。「失独者の家」では、インターネットを通じ、実用的な情報とサービスを提供している。

本研究では、「失独者の家」の活動の効果について、利用者である失独者の満足度の面から評価するとともに、その満足度に与える要因について利用の動機と利用の有用性の面から明らかにすることを目的とする。

本研究における仮説は次の2つである。仮説1では、利用者の利用動機は「失独者の家」に対する満足度に影響を与える。仮説2では、高い有用性評価を与える利用者は「失独者の家」に対する満足度が高い。

## 第2章 研究方法

「失独者の家」の有用性と満足度に評価を行うため、アンケートを実施した。本研究の研究対象は「失独者の家」ウェブサイトの利用者であった。回答者は135名、回収率は14%であった。調査項目は利用動機、利用の有用性、利用満足度、調整変数（性別、年齢、失独年限）であった。

提供サービスと提供情報それぞれに対する満足度を従属変数に、独立変数として利用動機、利用の有用性、さらに調整変数を投入し、重回帰分析を行った。

調査対象者には、調査目的、データ収集方法、分析方法、調査成果の公表、個人情報保護、調査への参加と撤回の自由、参加の有無により不利益を生じないことについて文書と口頭で説明した上で、調査への参加の同意を得た。本研究は、桜美林大学研究倫理委員会の承認会(承諾番号：21030)を受けて実施した。

## 第3章 結果

サービス利用への満足度については、利用の有用性が高いと評価した人で満足度が有意に高かった。しかし、利用の動機が福祉サービスの利用という人では満足度が有意に低かった。情報への満足度については、利用動機が情動的サポートを求める人で満足度が有意に高かったものの、利用の有用性が高いと評価した人、および利用動機が福祉的サポートを求める人は満足度が有意に低かった。

## 第4章 考察

利用動機が情報の獲得にある人では情報満足度が高く、また有用性が高いと評価した利用者については、サービスへの満足度が有意に高かったことから、仮説(1)と仮説(2)がそれぞれ支持される結果が得られた。

一方、仮説(1)が支持されない結果も得られた。福祉的サポートを求める傾向の強い利用者にとっては、情報とサービスへの満足度が有意に低い傾向がある。この結果が得られた理由としては、中国で豊富なサービス支援を行う難易度が高いことと「失独者の家」のウェブサイトが使いづらいことが考えられる。また、情報への満足度については、有用性の高い利用者は満足度が低い傾向があった。このような結果が得られた理由は、ウェブサイトが使いづらいことと交絡要因の影響が考えられる。

本研究の問題点と将来の本研究については、第1にサンプルサイズが比較的小さいこと、さらに失独者の居住している地域が不明確であるため、地域差に言及できなかった点が問題点として指摘できる。今後、より多くの利用者の情報を収集することで本研究の妥当性を検証する必要があるとともに、地域による満足度の違いとその要因を明らかにする必要がある。

## 第5章 終章

本研究では、有用性と利用動機という2つの視点から「失独者の家」への満足度の要因分析を行った。分析の結果、利用者の有用性がサービスへの満足度の向上に、さらに情報入手という動機が強い人で情報満足度が高いことが明らかになり、仮説が支持された。しかし、他方では利用動機が福祉サービス利用ではサービス満足度が低く、さらに利用しての有用性が高い人では情報満足度が低いという、仮説が支持されない結果も得られた。

#### 参考文献

- 1) 毎日新聞：『政府が老後みる』消えた約束一人っ子失った高齢者急増、苦境に。( <https://mainichi.jp/articles/20190304/k00/00m/030/155000c>, 2021. 12. 23 アクセス) (2019).
- 2) 岳長海：完善失独老人保障服務. 北京觀察, 2017Vol. 6:38-39(2017).
- 3) 張萌：溫暖小屋—遼寧省失独者之家公益網站平台建設研究. ( <https://m.fx361.com/news/2018/0129/2796960.html>, 2021. 12. 23 アクセス) (2018).
- 4) 中国国家計画生育委員会：財政部关于印發全国独生子女傷殘死亡家庭扶助制度試点方案的通知. ( <http://www.nhc.gov.cn/jtfzs/s3581/201502/6dd661a9e1214ac0b4330c3ab6ab87a6.shtml>, 2021. 12. 26 アクセス) (2007).
- 5) 中国国家统计局：中国統計年鑑 2020. ( <http://www--stats--gov-cn.proxy.www.stats.gov.cn/tjsj/nds/2020/indexch.htm>, 2021. 12. 26 アクセス) (2021).
- 6) 万立軍、王若西：失独家庭養老文献綜述. 農村經濟与科技, 32(17):198-200(2021).
- 7) 王海彦：昆明市 300 名城市社区失独者心理健康狀況及影響因素分析. 護理学報 24(22):1-6(2017).
- 8) 滕秋玲：「失独者獲得感提升路徑研究」, 科技風, 2019(32):224-225(2019).
- 9) 梁明輝, 張黎, 巩新鵬：失独者心理健康狀況初探—以 50 例失独父母 SSRS 与 K10 的網絡調查為例. 中国農村衛生事業管理, 2013(12):1393-1395(2013).
- 10) 山中直哉：民間フィットネスクラブ利用者の満足度及び継続意思に与える影響：継続利用動機, サービス評価, 消費者関与に着目して. 卒業研究抄録集:びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部 2016 年度:275-275(2017).
- 11) 林幸史&藤原武弘：観光地での経験評価が旅行満足に与える影響:観光動機と旅行経験の観点から. 社会学部紀要 114:199-212(2012).